



# ひまわりノ畑



教育目標 思索・和敬・剛健  
R7学校スローガン 笑顔とあいさつそしてありがとう

<http://www.kivose.ed.jp/~kivosedai/gohu/wuzakkou/index.htm>

## 「長月」だということに、猛暑は続きそう?!

9月には長月という和風月名の別称があります。由来は夜の長さがだんだん長くなっていく頃で、「夜長月（よながつき）」と呼んだことからだそうです。（国立国会図書館 HP より）確かに秋分の日（9/23）の日没時刻は 17:40 で、ずいぶんと夕暮れが早くなったと感じる頃です。昼の長さや太陽高度を考えると、日射量が多い夏至（6/21）の頃が、一番暑い時期になりそうですが、実際はふた月ほどずれた8月です。その自然の仕組みについては、理科の授業で学ぶ知識で導かれます。解答はネットで検索すると、小学生向けから高校生向けまで、色々な解説が見つかります。どれがわかりやすいかを比べるのも面白いです。



さて、今年の夏休みは、東京でも 39.1℃（8/5）を観測し、最高気温が30度を下回る日がたった2日で、猛暑日が29日もあり、今までに経験したことのないような暑さでした。気象の専門家によると、日本列島の大气下層に海洋性の太平洋高気圧、上層には大陸性のチベット高気圧という二つの暖気団が重なったため、さらに都市部では「ヒートアイランド現象」が気温上昇に拍車をかけたと考えられるそうです。

1学期終業式で「人は風行性の生き物なので、睡眠・食事・排泄の3つと、朝日を浴びて生活リズムを整え、やらねばならないことを先に済まし、次に自分が選択したこと、その次に好きなことに取り組み、昼間が長い夏休みに沢山の経験をして下さい。」というような話をしましたが、これだけ気温が高いと、昼間の屋外活動はしんどかったです。

植物は種類により成長に適した温度があり、野菜の多くは35℃以上が続くと、上手く成長ができない高温障害を起こすため、収穫量が減り高値になっています。生徒の皆さんが、この酷暑で予定通りにいかず、夏休みを満喫できなかったのでは?と心配です。

ニホンタンポポ（在来種系）は、春に花を咲かせ種を作り、夏場には葉を枯らして休眠して根だけになり、秋に葉を広げて栄養を蓄えて越冬すると言われています。動物の中にはカタツムリのように「夏眠」をする種があります。また、蚊は朝夕に活動して、30℃を超える昼になると動きが鈍くなり、35℃を超えると木陰でじっとしているそうです。

生物たちは、気候に合わせた生き方をしているようです。暑い時期は、朝活と夕活にエネルギーを使い、昼は暖機運転が良いようです。ちなみに外来種のセイヨウタンポポは、夏場の休眠をしないそうです。

## そして、実りの秋に向けて Start! ~ 修学旅行から始まる2学期 ~

暑さはしばらく続きそうですが、夏休みは終わり、2学期は予定通りに9月1日より、3年生は一足早く、8月28日から始まっています。立秋（8/9）の日から暦の季節は秋となり、この日以降の暑さは残暑と呼ばれ、「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉もあるように、例年は、秋分の日（9/23）頃には過ぎやすくなります。

【彼岸】：春分・秋分の日各日前後3日の1週間を「春のお彼岸」「秋のお彼岸」と呼びます。

秋は文学の秋、勉学の秋、芸術の秋、スポーツの秋と呼ばれ、何をするにも良い季節ですので、2学期には沢山の行事が予定されています。1学期は新しい学級での様々な取り組みを通して、個々の力を高めながらも、仲間づくりなど、育つための環境づくり、そして2学期はその土壌で、さらに経験値を積み上げて成長する学期です。早速、3年生の修学旅行で奈良・京都に出かけます。1・2年生は生徒会役員選挙や合唱コンクールに向けて、本格的に始動し、校外学習や職場体験もあります。秋は実りの季節です。生徒の皆さんが、一人ひとりどんな実を育ててくれるのかが、楽しみです。



## ■清瀬五中生の活躍のご紹介 ありがとうございます。

【第75回清瀬市社会を明るくする運動 きよせひまわりコンサート】 清瀬市社会を明るくする運動推進委員会

法務省主唱「社会を明るくする運動」作文発表

題名「全員で助け合うために」 1年生

※昨年度、清瀬第十小学校在籍中の応募作品（都推薦）

※家庭配布晚では、氏名をご紹介します。



昨年度、1年生の染谷さんは、「社会を明るくする運動（法務省主唱）」の全国作文コンテストに応募し、清瀬市代表として東京都大会に推薦されました。そして先日の7月12日（土）にけやきホールで行われた「きよせひまわりコンサート」で発表をしてくれました。

「社会を明るくする運動」：法務省が関係団体と協力をして、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場で力を合わせ、新たな被害者も加害者も生まない安全で安心な地域社会を築くための全国的な運動です。

### 全員で助け合うために

昔からあった盗みなどの犯罪は今も少なくなっています。重い刑罰や法律などがあっても犯罪はなくなりません。僕はそこまで厳しくしているのになくなる理由として、刑罰や法律があってもやめられない強い意志や、悪意があると思いました。ですが調べてみると一言では言い表せないような複雑な理由が組み合わさっていることがわかりました。

僕が一番危なく危険だと思った犯罪は衝動的犯罪です。（衝動的犯罪とは、あまり我慢ができずに自分をコントロールするのが難しい状態で、悲しい犯罪を起こしてしまうことです。）周りの人に話せずに、一人で抱え込んでしまって、不安でいっぱいになってしまうと、衝動的犯罪に繋がってしまうことが多いのではないかと考えました。犯罪が減るところかより複雑化していることもわかりました。

そんな中で、僕は2つのことを伝えたいと思います。皆さんは、誰かに良いことをしてもらった時に「ありがとう」と言っていますか。僕は小さいことでも、ありがとうと感謝の気持ちを伝えることが大切だと思います。すると周りの雰囲気良くなり、言った人も、言われた人も良い気持ちになります。これは日常的に優しい言葉を使っている証拠でもあると思います。いつも優しい言葉遣いをすれば周りの雰囲気は明るくなるので、いじめや犯罪は少なくなると思います。そしてもう一つ大切だと思うのは、悩みや自分の気持ちを誰かに相談することだと思います。辛いことなどを話せないまま一人で抱え込むと、いずれ心に限界が来てしまって、衝動的犯罪を起こしやすくなってしまいます。

実際にニュースを見ていると犯罪を起こしてしまった人の周りの人や近所の人などは、「全然こんな犯罪をするような人じゃなかった」や「信じられない」「真面目な人だった」など、その人の犯罪とは真逆な評判だったりして、その人が抱え込んでいることにあまり気づくことができていないからです。

人に話さないと、抱え込んでいることにすら気づくことができず、そして周りの人から話しかけてくれることは少ないからです。

だから今の僕たちにできることは、優しい言葉を使って、辛いことを違う方向に向けることが必要なのです。人と話したり、相談することによって、気持ちが晴れたり、周りの人に知らせることもでき、未然に犯罪を防ぐこともできます。

僕は今回、より複雑化していく犯罪について、なぜ起こるのか、起こらないためにはどうすれば良いかを考えました。

優しい心を持って、日常的に優しい言葉を使えるようになることと、一人で抱え込んでいる人が、抱え込まずに誰かに相談して気持ちを落ち着かせることが必要です。

ですが、どれも勇気のいる行動だと思います。でもそれをするだけで犯罪を防ぐことができるのです。スクールカウンセラーや相談窓口など頼れるところはたくさんあります。そこで僕は、明るい言葉を日常的に言えるようになりたいと思いました。全員が助け合えるような社会になってほしいです。

